

## 【旭区】平成 28 年第 2 回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	平成 28 年 6 月 24 日（金） 14 時 15 分 ～ 16 時
場 所	旭区総合庁舎新館 2 階大会議室
出席者	<p>【座長】大岩 真善和 議員</p> <p>【議員：5 名】佐藤 茂 議員、古川 直季 議員、 小粥 康弘 議員、和田 卓生 議員 河治 民夫 議員</p> <p>【旭区：34 名】池戸 淳子 区長、今関 三貴也 副区長、 松本 均 福祉保健センター担当部長 高瀬 卓弥 旭土木事務所長、大山 潔 旭消防署長 ほか 関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 28 年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営ひかりが丘住宅支援における実績報告</li> <li>・保育所を活用した養育支援強化事業について</li> </ul>
発言の 要 旨	<p><b>1 平成 28 年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</b></p> <p>河治議員：災害に強い区づくり事業、帷子川改修、カメラを設置して監視するのはそれはそれで素晴らしく、避難判断を迅速に行うことは大事だが、根本的な解決はもちろん河川の改修ということになるが、土地の取得も含めて先の長い話であって、だからと言ってそれをそのままということではなく、区役所としての対応がこれでいいとは思わない。様々な対応、緊急性、暫定的な対応があると思うが、今後の見通しはどうか。</p> <p>前中土木事務所副所長：平成 28 年度、道路局と環境創造局の予算で、両局が連携して帷子川河川の暫定的な浸水対策を行うということで、バイパス管の設置の設計や、国道 16 号線沿いに排水管を設置するというので、現河川に負荷のかからない方法で実施していくと聞いている。</p> <p>河治議員：具体的にはバイパス管の設置ということだが、そういうことも含めて計画があるのならこの場で説明していただきたい。具体的な内容そのものについて、全体でやはりそれでいいのかどうかも含めて議論が必</p>

要だと思う。大雨になるたびに大きな被害に見舞われているところでもあり、区長のご意見をいただきたい。

池戸区長：雨が降るたびに逸水するというのを地元からは伺っている。河治先生のご指摘のように河川の改修、今ちょっと手前のところまでできてきていますが、そこから先は用地買収とかいろいろ難しい問題があり、まだお時間がかかる。とはいっても先生がおっしゃるようにそのまま待っているわけにはいかないということでまずはやはりできることをしようと、現場の職員も考え、特に事業としてお金を付けているわけではないが、道路局の通常の予算、それから下水道の方の予算で、複数の局が連携して今できることということで前中副所長が説明したように、例えば道路排水をスムーズに流す、そして河川の事業ではなく下水の事業として水を河川の方に逃がしていく工事もやろうと、確かに暫定的ではあるが、河川改修が進むまで、できることを地元のためにやろうと進めていただいていると思っている。私どもとしては、とにかくできることを今一生懸命やっている、という風に考えている。

河治議員：繰り返し同じ場所が災害に遭うということで、私が特に言いたいのは、そういった暫定工事が予定されているなら、こういった場でも暫定工事をしている、地域の人たちにも話をしているということ、全体の共有事項としていただきたいと思っている。

安全で安心な食と生活環境支援事業だが、ハチの駆除ボランティア育成事業とあるがこの実態はどういうものか。例えばハチが巣をつくって大変だと相談したけれども、説明だけされたと聞いているが、ボランティアを育成するだけなのか、それとも困っている人に対して何らかの手立てを講じられるのか。

市川生活衛生課長：ボランティアの育成だけでなく、区民の方、特に高齢者のご家庭において、アシナガバチを中心に駆除をするという形で活動していただいている。27年度は37件実績がある。

河治議員：一般の方でもSOSが出たら、組織への連絡も含めて対応するのか。

市川生活衛生課長：あくまでも高齢者の方を中心にとということで始めた事業なので、一般の方については生活衛生課の方でご相談を受けつつ、様々な業者の紹介を含めたサポート、あるいはご自分でご対応いただける方については駆除機材をお貸しするといった対応をしている。

河治議員：予算もあるでしょうからすべてとはいかないにしても、やはり相談があったら本人に納得いくような形で対応、援助してほしい。

水・緑による旭区の魅力アップ事業のホタルの舞う里づくり事業、二俣川のこども自然公園はかつて中心的な位置づけをされていたと思うが、ここに入っていないのはなぜか。

押見区政推進課長：こちらでは支援をしている3地区を掲載しており、今お話のあったこども自然公園は自生箇所である。

河治議員：貴重な自生箇所ということで、旭区の魅力というのは自然豊かな水・緑なところであるから、実態調査をして、ダメにならないようにほしい。

押見区政推進課長：大切な旭区の資源・資産ということでしっかり確認していく。

河治議員：都市計画マスタープラン旭区プラン改定事業だが、連続立体交差のことを入れるというが、マスタープランそのものは生きているということでもいいのか。高齢化が進み、移動手段が厳しくなる中で、そういうことがどう進められるのかを含めて気になっている。

押見区政推進課長：旭区のまちづくりということで旭区プランを策定したのが、平成16年8月で、それから高齢化もかなり進んでいる。先ほどの立体交差のことだけでなく、そういった2025問題などを視野に入れて、高齢化社会を迎えた中でのまちづくり、それから移動の問題は、国土交通省の審議会でも横浜環状鉄道が意義あるとの報告もあった。全国都市緑化フェアの開催という好機もあり、前回プラン策定後10年以上経過しているため、まちづくりにおける新しい動きをしっかりと反映させて、今後のまちづくりを描くというもので策定していきたいと考えている。

河治議員：ぜひ途中経過の時点で我々も意見が述べられるような形で進めていただきたい。

温暖化対策プラス事業の、太陽光発電を活用した旧学校施設の維持管理モデル事業だが、なぜ旧学校施設につけるのか、考え方を教えてほしい。

押見区政推進課長：温暖化対策統括本部の予算で、今後の温室効果ガスの削減に向けたモデル事業ということで手を挙げたものである。この旧若葉台西中学校は、平成19年3月に統廃合となり、学校施設としては廃止したが、現在に至るまで後利用の本格利用が決まっておらず、地域開放を中心とする、地域の暫定利用が続いている状況である。暫定利用期間中に、最低限必要な光熱水費は教育委員会事務局で配慮しているが、屋上にこの太陽光パネルを設置することで少しでも光熱

水費の削減に寄与するということ、もう一つは暫定的に利用する中で地域の方も利用しているため、その方々にアピールもできるという意味合いも込めて、ここに設置したいと考えている。

河治議員：暫定といったが、本格実施はいつになるのか。

押見区政推進課長：なかなか大規模団地における学校施設の後利用というのは難しくなっており、こちらの若葉台地区においては旧5校あったのが、3校統廃合し、2校については活用が本格化している。ここについては過去に地域主体の文化・スポーツ施設として整備をしようということで決まっていたが、活動拠点としての整備の方向がまだ決まっておらず、課題解決に努めているが、まだ暫定の状態が続いているものである。

河治議員：結果を出していただいて、本格実施になるようやっけていただきたい。

ひかりが丘住宅支援事業、民生委員の欠員が多く自助・共助等困難だとあるが、民生委員の欠員が多い理由だとか、それによりどのような支援ができなくなったのか、またその解決策はどのような手立てがあるのか気になっている。

松本福祉保健センター担当部長：民生委員の状況だが、13名定員のうち一時は0名になったが、区役所の働きかけと地域の頑張りもあり、現在7名となっている。高齢化も進んで大変な状況にあるが、引き続き地域の方の御協力を得ながら、また民生委員の一斉改選が12月にあるので、それに向けて1名でも多く定員が埋まるように、地域への働きかけと民生委員の負担の軽減に努めていく。

河治議員：決まりはよくわからないが、地域広域で、ひかりが丘だけでなく上白根という風にエリアを広げて互いに支援をできるとか、そういう対応が必要ではないかと思うが。

松本福祉保健センター担当部長：民生委員の推薦は地元の自治会で推薦をすることが原則で、地元の自治会が小さかったり超高齢化していても、他の自治会から推薦するというのはなかなか難しい状況である。もう少し推薦の範囲を広げるといような制度改正ができればお互いに地区を超えて助け合うことができると思う。もう1点は他都市がやっている民生委員サポーター制度というものがあり、市の方でも検討したが、実際に今活動している民生委員からは、それよりも正規の定員数を増やしてほしいとのご意見もあり、サポーター制度をつくることには至っていない。引き続きいろいろなアイデアをもって2025問題に向

けて取り組んでいかないといけないという認識を持っている。

河治議員：高齢化が作り出す問題はいろいろあると思うが、若い人たちに魅力があるようなところにしなければと思う。熊本の支援として25世帯受け入れると聞いているが、実情はどうなっているのか

松本福祉保健センター担当部長：建築局の方でひかりが丘住宅に熊本からの避難者25世帯を受入れるという発表をした。今後の予定も含め5名の方が避難している。

河治議員：避難してこられる方と、もともとの住人の意思疎通が図れるように、区役所の役割も大きいと思う、対応よろしく願います

保育所地域子育て支援事業の臨床心理士の配置と関連して質問するが、旭区内の公立保育園数、私立の保育園数、園児数はどうなのか。

浦崎学校連携・こども担当課長：認可保育所41園、小規模保育事業6園、家庭的保育事業3つ、横浜保育室5園という状況。人数は約3,500人。

河治議員：後ほど資料を提出してほしい。なぜ左近山とひかりが丘に設置しているのか、経過は。

野田こども家庭支援課長：左近山は養育に支援を必要とする方が多かったので、まず臨床心理士を配置した。ひかりが丘は昨年度からになるが、やはり福祉的な配慮が必要となるひかりが丘団地に隣接しているということや、位置関係的に区の北部にあり、左近山は南部にあるので立地的な面や、市立の四季の森小学校との連携を深めていることもあり、2園目はひかりが丘とした。

河治議員：引き続きこの配置園は増やしていくのか

野田こども家庭支援課長：区としては公立保育園のエリアごとの配置を希望しているが、経費的に難しい面があり、現在は局のほうで1園、区で1園としている。

河治議員：エリアとはいくつあるのか。

野田こども家庭支援課長：4つのエリアに分けている。

河治議員：こまやかに対応できる形で進めていただきたい。

和田議員：全国都市緑化フェアの話だが、10万円予算をつけたということだが、メイン会場は山下公園でこちらのズーラシアは関心が薄いのではないかと考えていて、区民も今のところ期待していないようなところもある。ただアスレチックを有料にしますということなので、市の直営なのか委託に出すのかわからないが、区役所が全く関わらず、環境創造

局がやるということなのかもしれないが、ただ、区としてズーラシアでやる緑化フェアをどういう風にしたいのか、本当に盛り上げて、お客様がたくさん来て旭区内を楽しんでもらえる、ズーラシアも楽しんでもらえる形で入場者数が増えました、結果旭区としても盛り上がりましたという形にするのか、まあまあお付き合いという形なのか、二つ一遍にみるというのをどういう手立てでやるのかわからないし、全然別物のようにも感じるし、10万円の費用しかないが、どういう風な選択を考えているのか、大きなサイン看板なんか出すのか、旭区だけの話ではないので、全市的にどうするのか、東京だとか川崎だとか大和だとか町田だとか、そういうほかのお客さんまで宣伝するのかどうもよく見えない、しかもたった10万円というのもあって、どういう戦略なのか教えてほしい。

池戸区長：予算については、環境創造局から区配で500万いただいている。旭区が里山ガーデンの方の中心区ということで、こちらへの集客を先導していく立場にあると思っている。同じように緑区・瀬谷区も頭を悩ませていると思うが、私としてはやはり鶴ヶ峰駅からズーラシアの里山ガーデンにより多くの方に向かっていただきたいとっていて、スムーズに里山ガーデンに行ってもらえるようなPRは当然必要なので、例えばカウントダウンのイベントだとか、バス便も今のままではなかなか集客力が上がらないということで、例えばシャトルができないかだとか、道路の混雑の問題もあり、ズーラシアの駐車場もなかなか厳しいので、バスを使っただくということでシャトルバス、それから歩いて行っただくという意味では、鶴ヶ峰駅を降りた時にワクワクして現場まで行っただくようなしつらえというような意味で、先ほどご説明しましたがバスターミナルをもっとワクワク感のあるような場所にしていこう、というようなことも含めてこの里山ガーデンのイベントを、旭区としては当然、地域の皆さんにもお金が落ちるように、歩いていただくというのもそういうことにつながりますし、いずれズーラシアの植物園になる場所ということもあり、将来にわたってズーラシアへの集客を高めていく、そういう起爆剤にしたいと考えている。ズーラシアが今だいたい年間120万人ぐらいの来客数で、都市緑化フェアだけで500万人の集客を目標としているが、ズーラシアに来た方が当然隣接のこの里山ガーデンを見て行っていただけるようにしたいと思っている。そのあたり区役所だけでできるものではな

いので、相鉄さんなどと相談をさせていただきながらどんなことができるか考えており、また、区役所職員の中でプロジェクトチームを作ってどういうことができるか、にぎわい部会とおもてなし部会でいろんな検討を進めている。

和田議員：山下公園の方は近くにいろいろな施設もあるので人が集まるが、それを超えるぐらいにしないと、場所が広いということもあるし、なかなか盛り上がりというか、成功したという形にはならないと思うので、旭区だけじゃなくて、3区で協力して、どれだけ外の知恵を入れられるか、特に有料施設をつくるということなのでこれが結局は赤字でしたということではなくて、黒字で委託料払う必要がありませんでしたぐらいにして欲しい。かなり力を入れないと、里山ガーデンやりました、ということで終わってしまう。税金を投入するのであれば成功していただきたい。

若葉台証明発行コーナーは今年度限りということか。

田村戸籍課長：来年の3月までで廃止予定ということで地域には説明している。代わりに横浜市として来年の1月からコンビニエンスストアで証明発行サービスを始める予定である。

和田議員：マイナンバーカードを半年かかって手に入れたが、これは1日100人しか発行しない。人口の1割ぐらいが申し込んでおり、今年の12月までに人口の1割程度にしかいきわたらない、そういう状況の中で証明発行コーナーを本当に廃止してよいのかここにきて不安になってきたのだからいかなものか。

田村戸籍課長：二俣川の行政サービスコーナーはそのまま残り、また区役所でも証明発行をしているので、コンビニエンスストアをご利用できない方についてはその他の手段でお願いしたい。

和田議員：状況が状況なので少し柔軟に考えていただきたい、まだ時間があるのでお願いしたい。

小粥議員：認知症をみんなでささえるまちづくり事業のエンディングノートだが、どのような場所でどういった人を対象に活用講座を開くのか。普通にどこかに行けばもらえるというものなのか、説明をしてから配布、活用してもらうようにしないといけないと思うが、具体的にどのように周知するのか。

新井高齢・障害支援課長：現在検討しているところであるが、区内の地域ケアプ

ラザで活用講座を開催し、そこで使い方を含めて配付していきたいと考えている。

小粥議員：どういう人を対象に、どういう募集をかけて、いつ講座を行うのか。

新井高齢・障害支援課長：まだ作成中であり、年度後半に完成させ、印刷する。

そこから具体的な周知方法や対象とする方々を決定していくことを考えている。

小粥議員：地域安全安心普及啓発事業の防犯灯設置事業は、LED化が進んでいて市全体では90%以上と聞いているが、区内のLED化の状況はどうか。

春原地域振興課長：14,000灯のうち85%にあたる12,000灯がLED化している。27年度にはそれに加えさらに108灯がLED化している。市民局から話があったと思うが、いよいよ東電の電柱以外の鋼管ポールという独立型のものについてもESCO事業としてLED化していくので、ほぼLED化になると考えている。12月までには終わると思っている。

小粥議員：地域包括ケアシステム推進事業の、要援護高齢者等あんしん見守り事業、一度モデル事業をやったりしたが、尻すぼみのような感じだった。局事業との違い、やる担当が民生委員なのか、具体的にどういう地区でどのような高齢者の見守り活動を行っているのか、二つの事業の違いを含めて教えてほしい。

松本福祉保健センター担当部長：ひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業だが、これは全市的にやっているもので、75歳一人暮らし新規の方を主に民生委員が見守るという事業。もう一つの区づくり推進費で行っている要援護高齢者あんしん見守り事業は、民生委員もかかわるが、主に老人クラブの人たちが中心となって自主的な見守りを行っている。同じ見守りだが、二つの事業が並行して走っている。高齢化してくると多方面からの見守るということがよいので、旭区では二つの事業を同時に進行している。他区では要援護高齢者の事業をやめているところもある。

小粥議員：ほぼすべての地区でこの見守り活動をやられているということか。

松本福祉保健センター担当部長：程度の濃淡はあるが、多くのところで取り組んでいただいている。

小粥議員：それは組織ができていて、1週間に1度とかそういうシステムができているということか。

松本福祉保健センター担当部長：実際の訪問もあれば、サロンという形で緩やかに見守るというものもある。だいたいの地域でやっている。



小粥議員：きらっとあさひ地域支援補助金、区づくり推進費と区配の違いはなにかよくわからない。後ほど資料で交付団体名を教えてください。

新井高齢・障害支援課長：後ほど資料提供する。11 ページの方は希望ヶ丘のカフェコミュニティと若葉台北自治会の若北サロンという、一人暮らし高齢者を対象とした給食会を行っている団体へ交付している。

小粥議員：商店街振興事業のマップとは、どのようなものをつくるのか、どのように配布するのか。

春原地域振興課長：それぞれの商店街が独自に作ったものはあったが、行政が先導して各商店街とコラボレーションしてつくるのは今回が初めてとなる。現在、区商連を通じて各商店街の会長さんたちとお話をしている。場合によってはあさひの逸品とか区独自の取組とあわせて商店街をどのようにアピールしていくか、どういう風に配布するかを含めて商店街と話をしている。年度後半にお披露目できればと思っている。

小粥議員：旭区全体を一つのマップにするわけではなく、一つずつなのか

春原地域振興課長：市の商店街連合会に入っているところとそうでないところもある、そういったことをトータルに見て、いくつかのエリアごと、駅だとか商圈を中心としてエリアに分けて作ろうと考えている。

小粥議員：文化芸術による心の豊かさ推進事業の音祭り連携事業、新規ということだが、いつごろ何をやる予定なのか。

春原地域振興課長：区内の音楽団体と連携して公演会や、吹奏楽にかかわっている小学校などのお子さんへのクリニックなど検討を進めている。器楽なら器楽の専門家に教えていただく、そういったものを考えている。

小粥議員：旭区は中沢小とか、吹奏楽が強い、金賞を受賞している学校もある。富士見学園でも毎年演奏会をやっているが、区民の皆さんに啓発になる事業としてほしい。

二俣川行政サービスコーナーは、場所が変わったが行きづらい。特に朝は二俣川ライフが開店するまではエスカレーターやエレベーターが使えず、奥に入ってから戻るような形になる。もう少し駅の近くとかに場所をわかりやすく提示する、地図で示すなどしないと、さっぱりわからない。考えてほしい。

田村戸籍課長：問い合わせが電話でもある。二俣川ライフ 4 階ということでわかる方はわかるが、歩道橋も二つあるため、ステーションプラザの入口にドンキホーテ側歩道のエレベーターをご利用くださいと掲示をしている。

小粥議員：いずれにしろ朝は奥のエレベーターを使わなければいけないので行き方がわかりづらい。わかりやすくしないと利用頻度も下がってしまう。

池戸区長：わかりづらいところがあるのでちょっと工夫する。駅改良工事に伴う暫定的なものなので、その期間内ということになるが何かできることがないか工夫していく。

小粥議員：全国都市緑化フェア関係だが、ズーラシアの渋滞がひどい。渋滞緩和に向けて局とも連携をしたと聞いているが、環状4号線と中原街道の渋滞緩和をお願いしたい。

前中土木事務所副所長：この連休前に、中原街道本線レーンについては土木事務所の方で、中山方面から来た場合の右折レーンの延長工事を実施したため、若干緩和された。白根街道については今工事をやっているが、左折ができる車線を増設して渋滞が緩和されたと聞いており、相鉄バスさんをお願いして運行時間をとって効果を確認している。

小粥議員：ひかりが丘住宅支援事業、単身70歳代の相談が多くまさに生活支援だと思う。相談内容の中でも家事、近所関係等が多いというが、実際に一番多いのはその他だが、それは本当に日常生活の一つ一つの内容である。結局高齢単身者は特定の問題というよりも、日々の生活のわからないようなことを誰かに相談したいが相手がないということで利用されていると思われるが、この事業は週に2回であり、日々の相談が難しいと思うが、例えば週5日にするとかそのようなことは考えていないのか。

松本福祉保健センター担当部長：週2回の相談室とサロンには自治会館を借りている。他の日は訪問相談ということでアウトリーチしている。当初は窓口に来ていただく方が多いのではないかと考えていたが、むしろ出かけていく方が多くなってきたので、週5日窓口を開くより、訪問してそういった相談に乗る方法をとっているが、今後、様子を見ていきたい。最初フロントサービスと銘打ったが、そのようなホテルのフロント形式で日常的な相談を受けて支援していくということは念頭においているので、引き続き様子を見ながら考えていきたい。

小粥議員：見守り事業で安否確認が取れずに、室内で死亡した孤独死が5件あるが、この数は多いのか少ないのか、このようなことが起きないようにしなければならないと思うがどうか。

松本福祉保健センター担当部長：訪問事業で孤立死を未然に防いだ例が少なくとも十数件ある。孤独死のうち3件は見守りに登録していた人で、定期

的に訪問等していた人である。もしこの事業がなければもっと見つかるのが遅かったと思う。孤立死は定義がなく、どこまでを孤立死というか難しい。人間の尊厳が脅かされるようなことがないよう、できるだけ短いスパンでキャッチする、もちろん死に至る前に救命救急できればもっとよく、そういった形で訪問を進めていきたい。

小粥議員：本来ならば具合が悪くなったらこの人に連絡したら来てもらえるといったような、死ぬ前に手立てがもっとあるのではないかと思う。精神疾患をお持ちの方もいらっしゃると思うが、こういう事例を少なくするために見守りがあるのではないかと思う。こういうことがない地域に、より活性化をしていかななくてはならないと思う。28年度からLSAという新たな制度でやっているのもより専門的になると思うが、どういう風にしたら高齢者の方々の日々の生活の支援だとか、こういう孤独死をなくすような日頃のつながりをどのように高めていくか、ぜひ考えていただきたい。

佐藤議員：全国都市緑化フェアの地元のズーラシアの心配があったが、当初説明を受けた時、以前もセカンドステージというか、ズーラシアを舞台にしたときに、寂しい状況が見受けられた。旭区のみならず地域の方々はズーラシアで行われるものにかかなりの期待をしている。健康な人はいくらでも都心部の方に足を運ぶことができるが、足が不自由で近場のものしか行くことができない人も数多くいらっしゃる、そういう方々のためにもぜひともズーラシアの舞台に光を当ててほしい。局のほうにも、今度は絶対はずさないでほしいと力強く要望しておいたが、それこそわれわれ地元の議員団が協力できることがあれば言ってほしい。

健康生活支援事業の女性のための健康づくり事業、この事業は区の単独でやるものなのか。

松本福祉保健課長：こちらは区で執行していくものです。

佐藤議員：健康福祉局からは支援をどのように受けているのか、ここに載っている日程は何かのイベントに合わせているのか。がんの検診は非常に重要であるということは皆知っているが、二人に一人ががんになって早めに検診を受けている方は命を救われるわけだが、最近でも有名な方々が、頻りに検診を受けていても見つけられないということもあるようだ。いずれにしてもがんの検診をしていかなければ命を守ること

ができないわけだから、身近でたとえば乳がんの自己触診法だとか、がんの検診の受診勧奨だとかどのようなことをするのか教えてほしい。

松本福祉保健課長：日程は、6月は子育て支援拠点で開催、10月は子育て支援広場で開催、12月はまだ予定だが、地域での子育て支援事業におじゃまして、これだけで募集するとなかなか集まらないので、そういった機会を使ってやらせていただく。

内容は、保健師等専門職が出向いて直接、骨密度測定や、自己触診法でどういう風にチェックするかなどとともに、がん検診の受診勧奨も、そういった機会をとらえて行っている。

佐藤議員：区民まつりなど大勢の人が集まる時にやるのかと思ったが、違うのか。ぜひそういった大きなイベントにもあわせて普及啓発をしてほしい。女性は検診を受ける機会が男性に比べて少ないと思うので、区がイベントで多めに啓発するとか、機会の少ない方に紹介できるような活動をしていただきたい。

消費生活推進事業だが、旭区は昨年度、おれおれ詐欺被害額が一番大きかったと聞いたが、一方で消費者生活センターに聞くと、それだけではなくいろいろなトラブルがある。以前局の方に尋ねたとき、葬式のトラブルがこんなにあるのかとびっくりした。旭区でワースト3か5か、著しくトラブルとなっているものを教えてほしい。

春原地域振興課長：高齢の方々にそういった情報を届けられるのかということも旭区のみならず全市的な問題であり、新しい取り組みとして、6月の区連会で議題となったのだが、7月から毎月、消費者被害の主だったものを各自治会に情報提供して掲示板に張っていただこうとしている。ただ、区連会の会長さん方からは掲示板でなく回覧の方が効果があるという意見もあり、経済局に戻して効果的なPRを進めていきたい。被害の主だったものというのは刻々と変わっている部分もあり、こちらのほうはあさひ安心安全かわら版で毎週定期的に新しい内容としてお届けしているので、こちらについてもさらにPRを進めたいと考えている。

佐藤議員：知らない間に騙されてしまっていることもたくさんあると思うし、特に区だとか高齢の方や子どもはどうしても騙されやすい状況にある。区役所がすべて守れるわけではないが、啓発活動や自治会町内会の方々を通じて、何とか救ってあげられるような方法というのを考えて

いかなければならない。

古川議員：全国都市緑化フェア、区配予算が 500 万ということだが、区長から先ほどプロジェクトチームと話があったが、もう少し具体的に誰が中心となってやっているのかなど教えてほしい。

池戸区長：若手の職員も含めて区内に募集をかけて、希望した 15 人程度の職員に集まってもらっている。マスコットのガーデンベアをデザインした伊藤有壺さんが先日旭区にお越しくださって、ガーデンベアもぜひ里山ガーデンの PR に活用していただきたいと言っていた。そういうデザイナーの方とも連携して里山ガーデンを盛り上げる方法を旭区としても考えていきたい。もちろん PR だけではなくて、具体的な輸送方法とか、そこに向かう盛り上げ、先ほどから申し上げているワクワクするように、と、花壇をつくるというのもあり、ハードも含めてズーラシア方向に向かって気持ちが盛り上がるような中身づくりを旭区としてはやっていきたいと思っている。関連の旭・瀬谷・緑で、瀬谷も歩いてアクセスしようというようなことも考えているようなので、散歩道コースをご一緒にとか、交通対策という意味では、健康づくりという意味でも横浜市は非常に力を入れているので健康ポイントもぜひ設けてもらおうと健康福祉局と調整したり、いろいろな方面を活用しながらやっている。先ほど佐藤先生からできることがあったら僕らもぜひ力になると言っていたので、ぜひ相鉄を含めて交通機関の皆さんにもご協力をいただきたいと私ども今頑張っていますので、ご支援どうぞよろしくお願いします。

古川議員：私どもも頑張っていきたい。今常任委員だが、このイベントは 29 億円で、来場者数目標が 500 万人という、これは市を挙げてやらなきゃいけないことで、必死になってやってもらっているが、当該の区役所としては一丸となってやっていたが、我々も頑張るし、みなさんもがんばる、500 人の旭区職員のみなさんが例えば名刺にガーデンベアを入れて今から準備して大々的にやって、メディアも入れて、このイベントを通じてズーラシアは旭区のシンボリックなもの、街が活気づく、様々な課題があるが、みんなで協力して、まず多くの人に来てもらうことが必要だ。区民デーを設けることがよいかわからないが、500 人もいるんだから、プロジェクトチームに任せるだけじゃなくて、みんなでやりましょう。ぜひ成功に向けて、旭区が先頭に立って行っ

	<p>てほしい。</p> <p>大岩議員：若葉台西中は10年ぐらい跡地利用が決まっていない。計画については一応区が担当していると聞いたが、あのままずっとああしておくわけにはいかないので、地域から声を聴いて進めてほしい。左近山の小高小についても、前も区政推進課の担当にはお伝えしたが、人も変わったので改めて要望する。</p> <p>河治議員：二俣川期日前投票所が移動したが、ココロットにあったら利便性がよかったという意見があった。可能なら次はもっと利便性の高いところに設置していただきたい。</p> <p>小澤総務課長：二俣川は利便性が高く、今回ご迷惑をかけたと思っている。私もいろいろ検討したがどうしてもこの参院選には間に合わない状況で、早く新しいところを決めて周知しなければならないということで若葉台になった。鶴ヶ峰・二俣川周辺を調べて、ココロットも調べたが、期日前投票所に使えるような条件が合わなかったので選択肢から外さざるを得なかった。今後も利便性を考えて選挙管理委員会で話し合っていきたいと思っているのでご理解をお願いします。</p> <p>河治議員：不十分な部分があったらクリアして、次はよろしく願いしたい。</p>
備 考	